

第1学年 音楽科 学習指導案

日 時：令和2年12月24日（木）

2校時 10:15～11:05

対 象：1年9組 10名

授業者：長嶺 歌織

1 題材名 「リズムアンサンブルを作ってみよう ～聴く・叩く・作る～」

2 題材の目標

- (1) 音符や休符の意味を理解し、他の人と合わせて表現できる技能及びイメージを表現するために必要な技能を身に付ける。【知識及び技能】
- (2) 音楽を形づくっている要素（リズム・速度・音色・強弱）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、グループのイメージにふさわしい表現を創意工夫する。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 生徒自身が面白い・カッコいい表現を見つけ、それに近づけようとグループで協力しながら工夫を行い表現しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

3 題材について

(1) 教材観並びに指導観

本題材は、平成31年告示の特別支援学校高等部学習指導要領第2章第2節音楽〔1段階〕A表現イ「器楽表現についての知識や技能を生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること」、ウ「創作表現についての知識や技能を生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること」に基づき、簡単なリズムアンサンブルを作り演奏することをねらいとしている。また、曲を鑑賞する際に着目するポイントを理解させることで、「速度」「音色」「強弱」を自分たちの作ったリズムアンサンブルの演奏に生かせるよう、発問やワークシートを工夫していく。

〔共通事項〕は、(1)アの「リズム」を重点に、「速度」「音色」「強弱」については、創意工夫する際の表現要素として学習する。音符やリズムを十分に理解できていない生徒も無理なく活動ができるよう、音符カードやリズム・パターンを図に当てはめて完成できるようにしていく。

(2) 生徒観

対象学級は男子7名、女子3名、計10名の学級で、全員軽度知的障害を有し、自閉的傾向を併せ持つ生徒もいる。概ね明るく男女間の仲もよく、授業時の発言も活発な学級である。グループ学習を円滑に行うため、おとなしい子が話しやすい生徒と一緒にいるよう、グループ分けを考慮した。

1学期に取り組んだリズム学習時の実態として、四分音符、四分休符、八分音符によるリズムは自分たちで手拍子を打つことができていたが、八分休符が入ると教師の模範を必要とした。リズムリレーでは、前の人の演奏するテンポに合わせてつなげて演奏することが難しい生徒もいた。また、リズムアンサンブルでは、他のパートにつられてしまい、自分のパートをキープすることが難しい生徒もいた。

事前アンケートの結果を見ると、これまでの音楽の学習で創作（アレンジ含む）に取り組んだことのある生徒は一人もいない。「創作」と身構えるのではなく、ゲームのように当てはめ楽しんで活動できるように、ICT機器などを活用して見本を示したい。

これまでの本題材の学習を振り返ると、第1時では全グループとも互いに意見を出し合いながら8

拍のリズム作りを行っていたが、発表時に「せーの」とうまく合図が出せずバラバラな演奏も見られた。また「速度」に着目した演奏は見られなかった。第2時では、互いに教え合う場面も見られ、どのグループも「強弱」を工夫した演奏を行うことができ、振り返りシートからは本人たちの自己評価も高かったことが伺えた。第3時では、テーマを決める、それに合わせてリズム・パターンを選ぶ、ソロやユニゾンにするところを決めるという思考する場面が多く、「音色」の工夫まで至らなかった。教師の見本を参考に、自分たちの物語を作ってリズム・パターンを並べ練習できたグループと、練習までできないグループがあり、第2時より自己評価の低い生徒もいた。本時は、1～3時で着目させた「速度」「音色」「強弱」を自分たちの作ったリズムアンサンブルの演奏に生かせるよう発問を工夫し、またグループ学習の時間を十分にとっていきたい。

4 題材の評価規準

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
知 音符や休符、速度・音色・強弱を理解している。 技① 周囲と合わせて演奏するために必要な技能を身に付け、リズムアンサンブルで表している。 技② グループのイメージにふさわしい表現で、リズムアンサンブルを演奏するために必要な技能を身に付け、表している。	思 リズム・速度・音色・強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、グループのイメージにふさわしいリズムアンサンブルとしてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	態 面白い・カッコいい表現に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的にリズム学習や鑑賞活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（全4時間）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動		備考並びに留意事項 ※ワークシート（WS）	知	思	態
	リズム	鑑賞		（ ）内は評価方法		
1	ステップ2 ◆グループで協力して8拍のリズムを作り、速度を工夫して演奏する			知 （観察・WS）		
	○音符や休符の確認 ・右のリズム・パターンを演奏しながら音符や休符を確認する ○グループで8拍のリズム作り ・グループで話し合い、音符カードを並べる ・考えたリズムを練習する ○速度による曲想変化の理解 ・先ほど考えたリズムの演奏する速さを考え、練習する ・グループごとに発表する ○本時の振り返り	○速度に着目した鑑賞 ・「ギャロップ」と「京劇」を鑑賞し、ワークシートに記入する	・1枚のカードが1拍なのを確認 ・ホワイトボードと音符カードを用意 WS 1			

	<u>ステップ3</u> ◆グループのリズムを作り、強弱を工夫して演奏する ○リズム・パターンの練習 ・5つのリズム・パターンを演奏しながら、音符や休符を確認する ○グループでリズム・パターンのアレンジ ・グループで話し合い、リズムカードを3枚選んでつなげる ○グループ練習 ・先ほど考えたリズムの強弱を考え、練習する ○グループ発表 ○本時の振り返り	○強弱に着目した鑑賞 ・「民衆の歌」と「ガムラン」を鑑賞し、ワークシートに記入する	・ホワイトボードとリズムカードを用意 WS 2	知 〈観察・WS〉 技① 〈観察〉		
3	<u>ステップ4・6</u> ◆テーマを決め、自分たちのリズムアンサンブルを作る ○リズム・パターンの復習 ・速度や強弱など意識しながら、5つのリズム・パターンを演奏する ○音色による表現方法と音の重なり方の理解 ・ソロ、ユニゾンという言葉を知る ・机や膝打ちなど音色の変化を体感する ○グループでリズムアンサンブル作り ・テーマを決め、それに合ったリズムカードを5枚選ぶ ・ソロやユニゾンの配置を決め、練習する ○本時の振り返り	○音色に着目した鑑賞 ・「newspaper」と「Kuku」を鑑賞し、ワークシートに記入する	・全員手拍子、机や膝など列ごとに音を変えたユニゾンの印象の違いを考えさせる WS 3 ・ホワイトボードとリズムカードを用意			
4 本 時	<u>ステップ6</u> ◆テーマに合わせて表現を工夫し、リズムアンサンブルを演奏する ○リズム・パターンの復習 ・速度、強弱、音色などを意識しながら5つのリズム・パターンを演奏する ○グループで表現方法決め ・グループで話し合い、前時に考えたテーマに合うよう速度や音色、強弱を考え、ワークシートに記入する ○グループ練習 ・考えた通り演奏できるよう練習する ○グループ発表 ○まとめ	・iPadで録画し確認しながら練習する ・互いの演奏を聴きあう	・強弱や音色など、具体例を示しながら表現方法を考えさせる WS 4 ・ホワイトボードとリズムカードを用意	思 〈観察・WS〉 技② 〈観察〉	態 〈観察・WS〉	

6 本時の展開

目標：テーマに合わせて表現を工夫し、リズムアンサンブルを演奏する（4/4時）

	○学習内容 ・学習活動	備考並びに指導上の留意点	知	思	態
			〈 〉 内は評価方法		
導 入	本時の流れの確認（3分）	・本時の課題や授業の流れについて説明する			
展 開	○リズムの確認（10分） ・速度や強弱、叩き方を変えながら、また交代で合図を出しながら、全体で5つのリズム・パターンを復習する 	・PowerPoint でリズム・パターンを提示 ・メトロノームを用意			
	○グループで表現方法決め（15分） ・前時に考えたリズムアンサンブルのテーマに合うよう、速度や音色、強弱などの表現方法をグループで考える ・考えた表現方法や発表者等をワークシートに記入する	・グループを確認し、練習場所を指示 ・強弱や音色など、具体例を示しながら表現方法を考えさせる ・グループ発表では、演奏だけではなくテーマや工夫した点も発表することを説明する ・タイマーの設定 ・各グループにホワイトボードとリズムカード、メトロノームを用意		思 （観察・WS）	
	○グループ練習（12分） ・決めた表現方法を演奏に反映できるよう練習する	・変更しても構わないので、色々試すように促す ・練習が進んでいるグループには、工夫した点が演奏に反映できているか、iPad で確認させる			
	○グループ発表（6分） ・互いの演奏を聴きあう		技② （観察）		
ま と め	○本時の振り返り（4分） ・ワークシートに本時の振り返りを記入する				態 （観察・WS）